

高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和6年度 第1四半期・令和6年4月～令和6年6月)

2024/6/25

ポイント

- ◆ 売上高対前年同期比は全産業で前期比29.4ポイント上昇し－9.5ポイント全産業で上昇。特に建設業やサービス業での上昇が目立つ。
- ◆ 採算性対前年同期比は全産業で前期比15.6ポイント上昇し－20.8ポイント全産業で上昇。特に建設業や小売業での上昇が目立つ。
- ◆ 材料、原材料、仕入単価の上昇が経営課題のトップ
従業員の確保難も建設・製造・卸売業で上位にあげられる

□売上高・採算性ともに対前年同期比で全産業で上昇となる。

売上高対前年同期比(全産業)は、－9.5と前回調査(－38.9)から、29.4ポイント上昇した(表1)。産業別でみると、全産業で上昇しており、特に建設業(60.8ポイント上昇)・サービス業(43.1ポイント上昇)での上昇が目立つ。

来期の売上高見通し(グラフ2-2)は、減少との回答が4.9ポイント下落した。増加・不変の合計が65.5%となり、前回調査から5.0ポイント上昇し、来期見通しに前向きな経営者が増えた。

採算性(表3)は全産業で－20.8となり前回調査から15.6ポイント上昇した。全産業で上昇。特に建設業(42.7ポイント上昇)や小売業(30.2ポイント上昇)での上昇が目立つ。

従業員水準(グラフ5 表5)は全産業で、不足傾向(0を下回る)となった。全産業でみると－15.8となり、以前従業員の不足傾向は続いている。

直面する経営課題では、材料、原材料、仕入単価の上昇が全産業でトップとなったほか、建設・製造・卸売業では従業員の確保難も上位にあげられた。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では最大震度7の揺れを観測した。災害時における被害状況を発信する方法や対策が課題となっている。災害時におけるインターネット上の偽・誤情報の流通・拡散は、迅速な救命・救助活動や円滑な復旧・復興活動等の妨げになりかねないものであり、また犯罪にもつながり得るものであることから、対応は重要と考えられる。

令和6年能登半島地震においては、「不審者・不審車両への注意を促す不確実な投稿」「存在しない住所が記載される」「不確かな救助を呼びかける投稿」といった真偽の不確かな投稿が流通したと指摘されており、総務省では、SNSの活用等により、偽・誤情報に惑わされないよう注意喚起を行っているほか、主要なSNS等のデジタルプラットフォーム事業者に対して、明らかに事実と異なり、社会的に混乱を招くおそれのある情報の削除など、利用規約等を踏まえた適正な対応をとるよう要請が行われている。

また、高岡商工会議所では、中小・小規模事業者が抱えるデジタル・DX課題対応のため、ITコーディネーター吉田誠先生[(株)よしだまこと事務所 代表]による定期相談会を実施している。デジタル導入事例やサイバーセキュリティへの対策、震災への対応など広く専門家から支援いただくことが可能なので、ご活用をいただきたい【下記A)参照】。また、8月28日(水)14時より高岡商工会議所8階会議室において、中小企業診断士で情報処理安全確保支援士の資格を有する林 拓生先生(ミタスサポート事務所 代表)によるデジタルセミナー「最先端対話型AIツール活用セミナー」を開催する【下記B)参照】。中小・小規模事業者を取り巻く事業環境が大きく変化する中において、柔軟に対応するための定期相談会やセミナーを高岡商工会議所では用意しているので、ご活用をいただきたい。

A) 事業環境変化対応型支援事業
デジタル相談のご案内はこちら⇒



B) 事業環境変化対応型支援事業
デジタルセミナーの申込みはこちら⇒



高岡商工会議所地域経済動向調査

(令和6年度 第1四半期・令和6年4月～令和6年6月)

調査月 令和6年4月～令和6年6月 (基準日6月1日)

対 象 高岡市内事業所 330社

回答数 148社 (回収率 44.8%)

回答業種内訳及び構成比

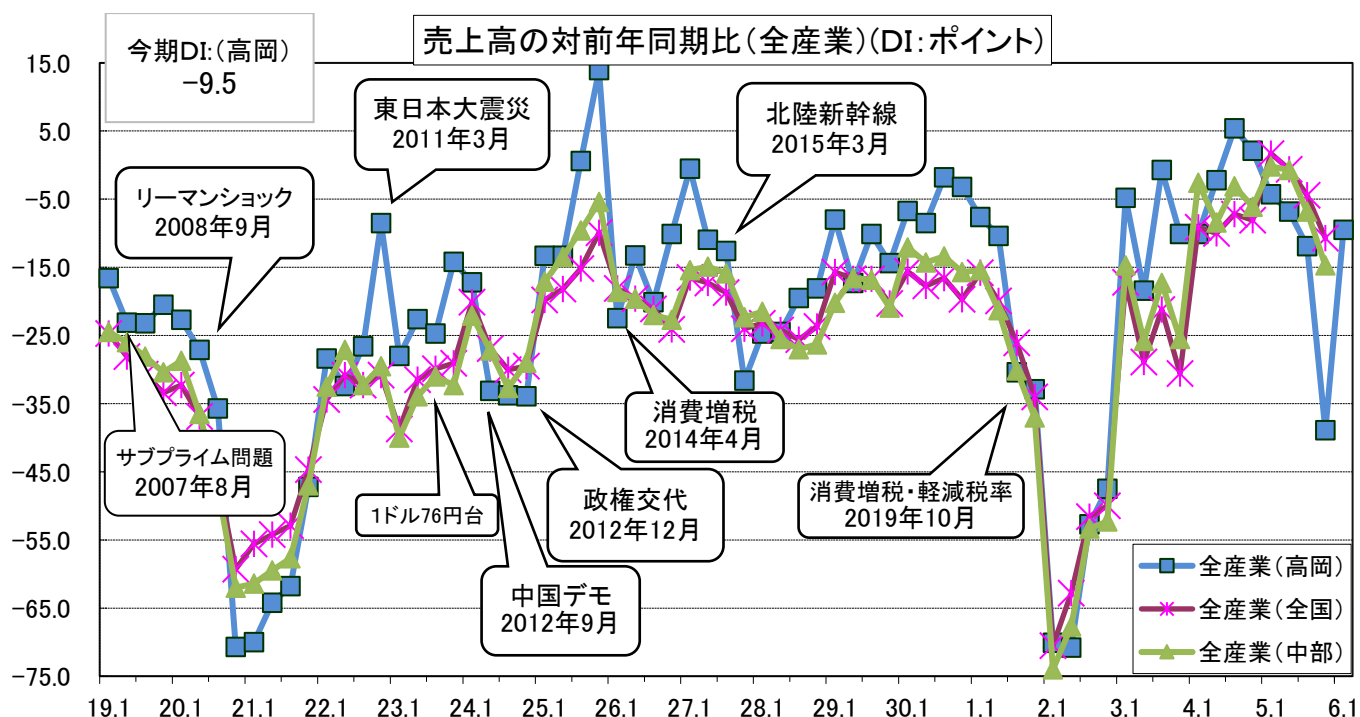
	建設	製造	卸売	小売	サービス	全体
回答数	16社	72社	23社	15社	22社	148社
%	10.8%	48.6%	15.5%	10.1%	14.9%	100.0%

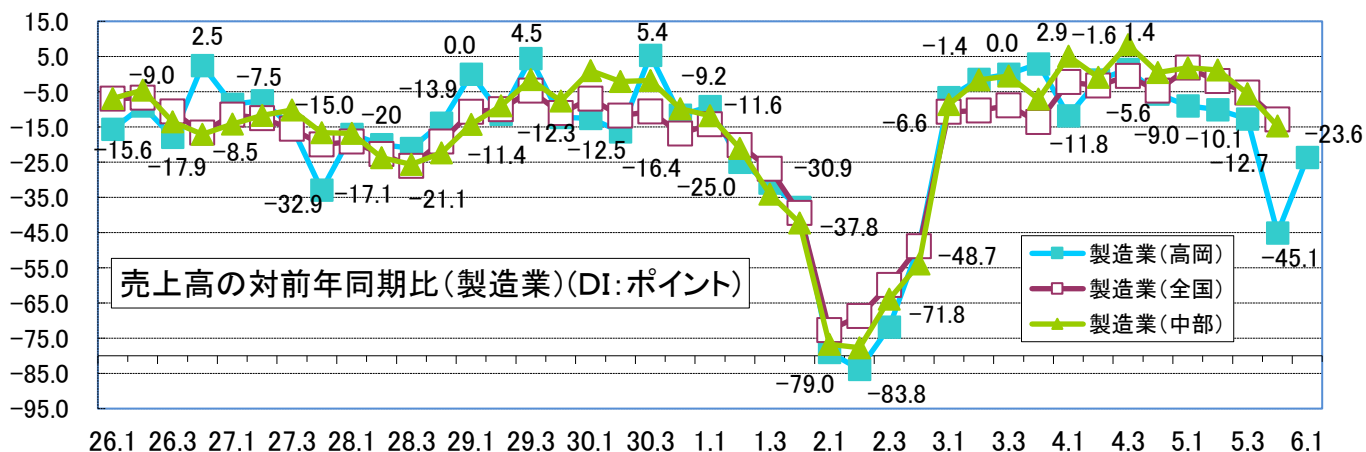
■1.売上高の対前年同期比

(%) (ポイント)

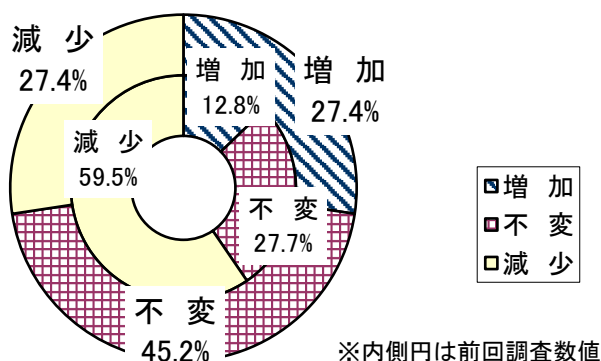
※全国、中部DIは前回調査分

		増 加	不 変	減 少	DI	前回DI	変 化	全国DI
業	建設業	18.8	68.8	12.5	6.3	-54.5	60.8	-13.9
	総合・土木	33.3	44.4	22.2	11.1	-57.1	68.2	-
	建築・職別工事	0.0	100.0	0.0	0.0	-50.0	50.0	-
	製造業	22.2	31.9	45.8	-23.6	-45.1	21.5	-12.9
	銅器・漆器	40.0	26.7	33.3	6.7	-42.9	49.6	-
	アルミ・機械・化学・電気	19.5	31.7	48.8	-29.3	-61.1	31.8	-
	食品・繊維・紙・他	6.7	40.0	53.3	-46.7	-21.1	-25.6	-
種	卸売業	34.8	30.4	34.8	0.0	-20.0	20.0	-8.8
	銅器・漆器	0.0	0.0	100.0	-100.0	-16.7	-83.3	-
	その他	42.1	31.6	26.3	15.8	-16.7	32.5	-
	小売業	20.0	33.3	46.7	-26.7	-55.6	28.9	-20.8
	食品・衣料・雑貨	33.3	33.3	33.3	0.0	-28.6	28.6	-
	電化製品・文化品・他	11.1	33.3	55.6	-44.4	-72.7	28.3	-
	サービス業	40.9	45.5	13.6	27.3	-15.8	43.1	-0.5
	全産業	26.4	37.8	35.8	-9.5	-38.9	29.4	-10.7

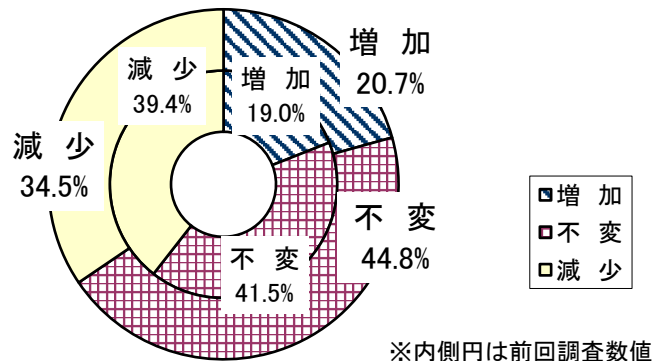




■ 2-1. 売上高の対前期比



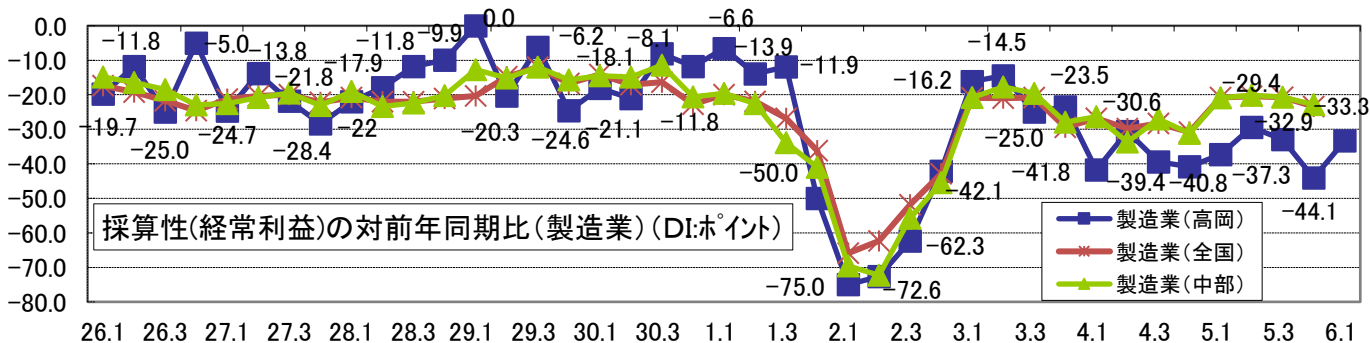
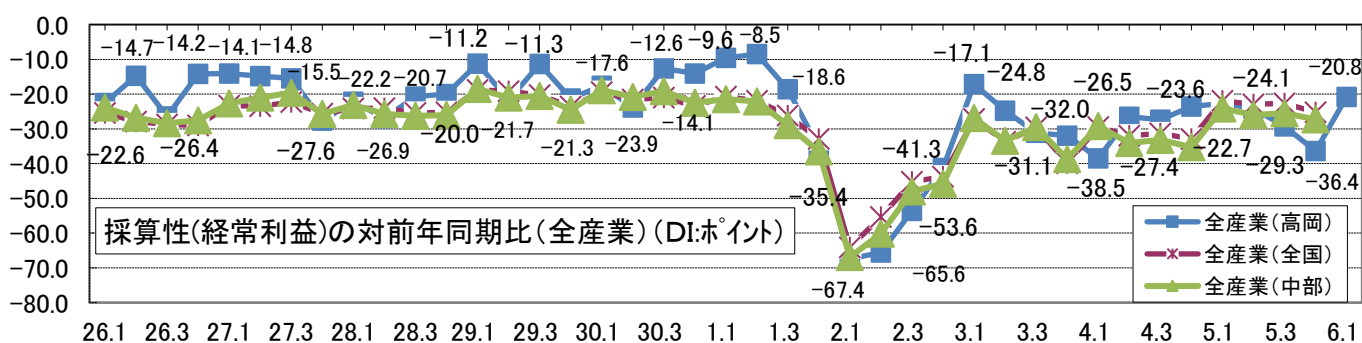
■ 2-2. 売上高の来期見通し(対前年同期比)



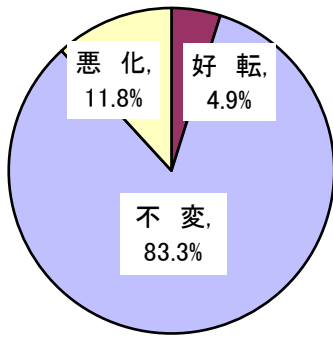
■ 3. 採算性(経常利益)の対前年同期比(%) (ポイント)

※全国DIは前回調査分

		好転	不変	悪化	DI	前回DI	変化	全国DI
業 種	建設業	18.8	68.8	12.5	6.3	-36.4	42.7	-26.8
	製造業	7.2	52.2	40.6	-33.3	-44.1	10.8	-23.4
	卸売業	26.1	39.1	34.8	-8.7	-16.0	7.3	-18.9
	小売業	7.1	57.1	35.7	-28.6	-58.8	30.2	-31.5
	サービス業	18.2	54.5	27.3	-9.1	-15.8	6.7	-22.3
	全産業	13.2	52.8	34.0	-20.8	-36.4	15.6	-25.2



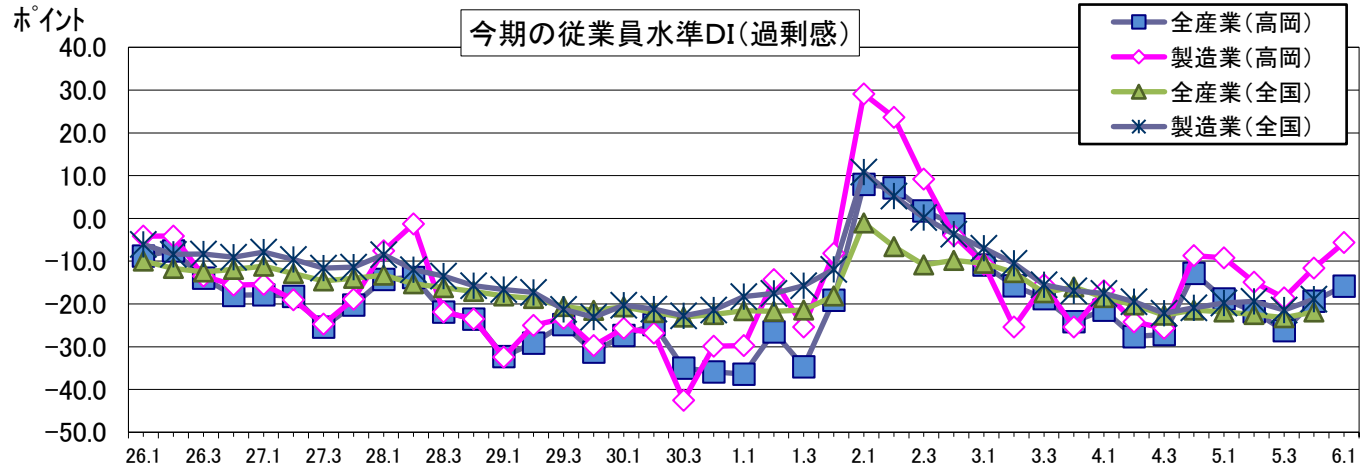
■ 4. 資金繰り(前年同期比)



資金繰り(前年同期比)の推移

	好転	悪化	DI
6.1	4.9%	11.8%	-6.9
5.4	1.4%	19.1%	-17.7
5.3	6.1%	15.6%	-9.5
5.2	5.0%	17.0%	-12.1
5.1	5.8%	13.9%	-8.0
4.4	2.1%	20.4%	-18.3
4.3	4.4%	15.6%	-11.1
4.2	5.4%	16.9%	-11.5
4.1	2.7%	21.2%	-18.5

■ 5. 今期の従業員水準(今期の過剰感)



従業員水準(過剰感)の推移

(ポイント)

	R4.2	R4.3	R4.4	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R6.1
建設業	-62.5	-53.8	-42.9	-46.2	-53.8	-64.3	-54.5	-50.0
製造業	-24.2	-25.7	-8.7	-9.2	-14.9	-18.6	-11.6	-5.6
卸売業	0.0	-12.0	8.3	0.0	-11.5	-11.1	-8.0	-8.7
小売業	-26.7	-31.6	-23.1	-33.3	-21.4	-33.3	-31.3	-14.3
サービス業	-40.0	-29.4	-23.8	-44.4	-36.4	-40.0	-31.6	-31.8
全産業	-27.6	-27.1	-12.8	-18.8	-21.8	-26.2	-19.3	-15.8

※数字が小さいほど不足感が強い
複数回答

■ 6. 直面している経営上の問題(各業種の回答上位)

建設業	①材料価格の上昇	27.3%
	②従業員の確保難	20.5%
	③下請け単価の上昇	11.4%
製造業	①原材料価格の上昇	21.9%
	②需要の停滞	14.6%
	③従業員の確保難	12.4%
卸売業	①仕入単価の上昇	19.3%
	①需要の停滞	19.3%
	③従業員の確保難	14.0%
小売業	①消費者ニーズの変化への対応	15.9%
	②仕入単価の上昇	13.6%
	③需要の停滞	11.4%
サービス業	①利用者ニーズの変化への対応	16.1%
	①材料等仕入れ単価の上昇	16.1%
	③人件費の増加	12.9%